

手紙が教えてくれたこと

白井市立南山中学校 三年 穀田 果凜

いつの日から、人は生き急ぐようになったのだろう。猛スピードで追い越していく車。電車で駆け込む人。エスカレーターを駆け下りる人。早歩きで人混みをすり抜けていく人。想像でしかないがその人達には数分、数秒でも無駄にできない何かしらの理由があるのかもしれない。

ここ数年の間で、「タイムパフォーマンス（タイパ）」という言葉が多く使われるようになった。タイパとは、時間に対しどれほどの効果や満足度が得られたかを指す言葉、言わば時間対効果らしい。このことを考えるようになったきっかけは、祖母からの一通の手紙だ。「コスパやタイパが話題になり、世の中の多数派の価値感が大切なことのように扱われているけれど、美しい絵を見たり素晴らしい音楽を聞いたりして、何が大切かを感じとって欲しい。」という一文があった。手紙を読み、今と違う時代を生きてきた人の豊かな考え方に、穏やかで心癒される気持ちになった。

なぜタイパに多くの人がかたわらうようになってしまったのか。タイパを求める人は、忙しく時間に追われている人と、限られた時間の中で目一杯楽しみたい人に分かれる。どちらにも時間が惜しいという共通した感覚があるようだ。「ながら見」という言葉があるように並行して別のことを同時進行させ、時短につなげている人も多くいるだろう。タイパを意識して効率よく物事をこなせると、それによって捻出された時間は、自分の好きなことに充てられる。その結果、心の余裕が生まれ、時間は有効に使われる。

こう考えると「タイパ」はメリットしかないように思えてくる。しかし、ここで私は祖母の言葉に込められた想いに立ち返る。今大切なことは何だろうか。タイパによって時間が作り出されているはずなのに、全世代とも日本人の睡眠時間は世界に比べて短くなっているという記事を見かけた。昔に比べ、スマートフォンやパソコンの普及により、睡眠以上に優先したい娯楽が夜更かしの誘因となり、睡眠にしわ寄せが行きがちだという指摘がある。私も、一日が二十四時間なのを短く感じる日が

沢山ある。タイパをして時間を作ることができても人間が健康でいるため、根本的に大切な時間を確保できていないことに何だか釈然としない。そして、タイパに固執しすぎた生活をすると、何でも効率化することばかり考え、人との会話も減り殺伐としてしまい、良い人間関係を築くことができなくなるのではないのかと思う。個人戦でただひたすら目先のことだけをこなすことだけが良いとは限らず、周りにいる人とコミュニケーションをとることも大切なのではないだろうか。生まれた場所も育った環境も、もって生まれた性格も違う誰かの考えを聞くことで、アイデアが膨らんだりする。タイパという視点からみれば、時間を費やす人とのコミュニケーションはあまり合理的でないことの方が多いのかもしれない。しかし、そうしてじっくりと時間をかけたからこそ、手に入れるものがあることを忘れてはいけないと思う。

「タイパ」とは遠く離れた価値観の話になるが日照時間の長いスペインではシエスタ、と呼ばれる日本よりはるかに長いお昼休憩をとる文化がある。シエスタの時間をどのように使うかは個人の判断にゆだねられ、昼寝や散歩をしたり、ジムに行ったりできるそうだ。同じ地球上にある国とは思えないほど自由でゆったりとした気持ちになり、その後の活動がより良いものになりそうだ。

時代と共に人々にとって何が重要かというのは常に変化してきている。しかし、時には効率を気にせず何かに追われたりすることなく、自分の時間を味わうのは必要なことではないだろうか。時間に追われず物事一つひとつに丁寧に向き合い、味わい楽しみ、豊かな価値のある時を過ごすことができるような社会をつくる一員に私はなりたい。将来、自分が何かに追われ生き急いでいると感じた時に歩みを止め、もう一度ここへ戻り、振り返ることができる人でありたい。「人の心が通じ合い、優しい世の中になれば、皆が幸せに暮らしていける気がします。」という祖母の想いを胸に。